

「みちづくり」の検討を始めます！

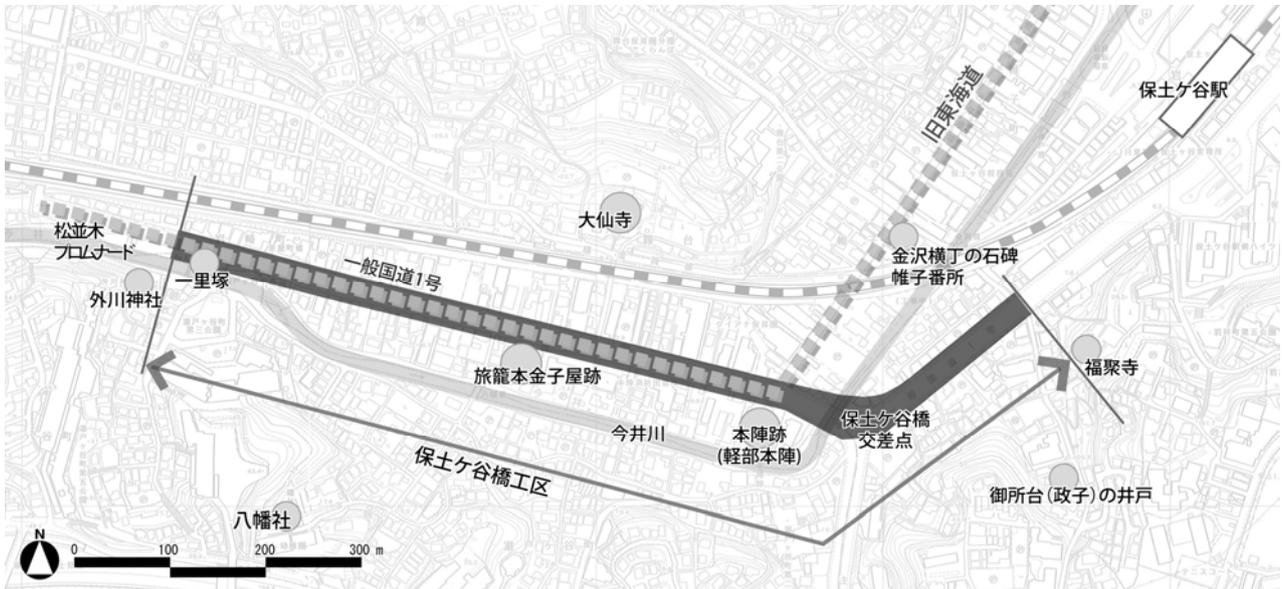
◆検討の目的・趣旨◆

国道1号（保土ヶ谷橋工区）は、かつて旧東海道の「保土ヶ谷宿」として栄えた地域の一部であり、沿道には東海道 400 年の歴史を伝える地域の歴史的資源である本陣跡や旅籠本金子屋跡などが残されています。

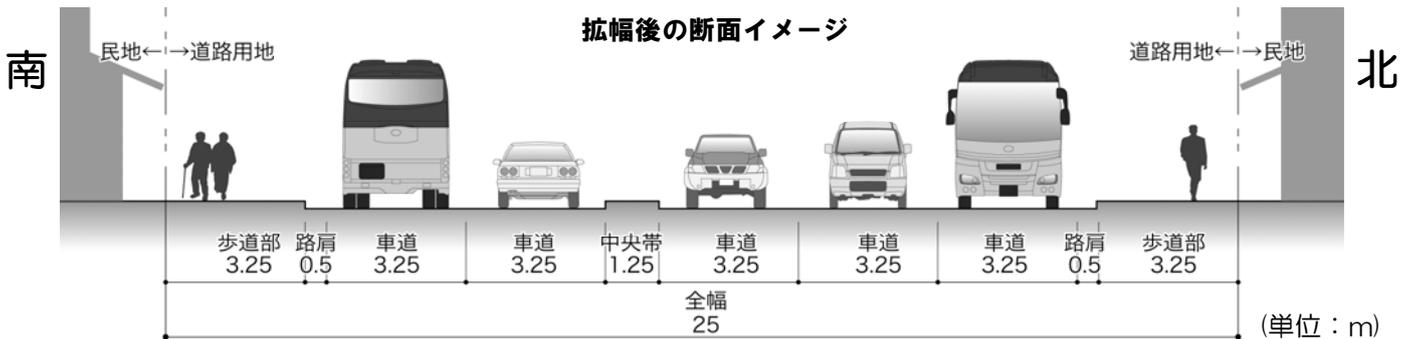
一方、保土ヶ谷区では 20 年以上前から保土ヶ谷宿を中心とした文化資源、歴史資源を活かした地域住民主体のまちづくり活動が活発に行われています。

本市では拡幅事業を進めるにあたり、これまでの地域住民主体の活動に加え、旧東海道保土ヶ谷宿の歴史や文化資源を活かしたみちづくりを進めていきたいと考えています。国道1号が市民に愛される良質な都市資産として未長く将来世代に引き継いでいけるよう、道路としての交通機能を確保しつつ、道路空間のつくり方、沿道の歴史的資源のあり方を地域とともに考え、旧東海道の歴史的資源を活かしたみちづくりを推進していきます。

道路整備の対象区域平面図と周辺の主な資源



拡幅後の断面イメージ



①一里塚付近より本陣跡方面を望む



②八幡橋バス停から本金子屋跡方面を望む



③本陣跡付近から一里塚方面を望む



保土ヶ谷宿 “ほっと” なお話 (その1) 「宿の成立と形成」

保土ヶ谷宿は、1590年代より宿場としての機能を持ち、1601年に徳川家康より下付された「御伝馬之定」と「伝馬朱印状」の発給により、江戸と京都を結ぶ最も重要な東海道53次の

宿のうち、江戸から数えて4番目の宿（成立当初は、川崎宿が成立しておらず、3番目）として成立しました。

成立当初は、元町橋付近に集落を形成していた保土ヶ谷町と帷子川の右岸（海に向かって右側）に集落を形成していた神戸町の2カ所に別々の宿場のように宿場が形成されていましたが、1600年代半ばに、東海道のルート変更と、帷子町・岩間町の編入、及び各町の現在の位置への屋敷の移転が行われ、現在のL字型の宿場町が形成されました。

今回みちづくりの検討を行う区域は旧東海道と一致する区間で、本陣跡前～復元された一里塚付近までとなります。



「保土ヶ谷宿絵図」と「伝馬朱印状」
(軽部紘一氏所蔵。出典：横浜市歴史博物館企画展 東海道保土ヶ谷宿)

今後のスケジュール (予定)

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度以降
整備方針検討 (住民アンケート調査)	→			
整備計画策定 (市民参加による検討)		→		
道路設計			→	

※上記スケジュールはあくまで予定であり、決定したものではありません。

発行：横浜市道路局建設課 担当：木村、松本、江副

問合せ先：(電話番号) 045-671-3542

編集協力：横浜市都市整備局都市デザイン室、保土ヶ谷区区政推進課